

# 地方 紀民 行鉄

## 伊豆箱根鉄道株式会社



伊豆箱根鉄道の路線は、駿豆線と大雄山線の2線。行楽日和、駿豆線の旅に出る。何より記憶に残るのは、笑って見送ってくれた優しい人たち。

**霞** のような雲のベールに空は覆われ、見渡す景色に富士山はない。それでも水色の空の下、日差しは柔らかく秋風も暖か。つまり、伊豆箱根鉄道駿豆線が走る静岡県三島市周辺は、本日、絶好の行楽日和なのである。すぐに電車で乗ってしまうのが惜しい気候に誘われて、ひとまず三島の街歩きへ。

### 一駅歩いて三島散策

三島駅から広がる市街地には富士山からの湧水が湧き、小川も多い。飛び石佐いに川の中を歩いていける場所などもあって、水辺の散歩は予想以上に面白い。透明度が高く、流れも速い小川に浮かぶ鴨たちは、その場に留まるだけでも大変。必死で足を動かすも、ふとした拍子に流されて、アタフタしている様は思わずやけてしまうほどの可愛らしさ。

歩き回っていると、どこかで見たような場所が点在していることに気が付き、某ドラマの舞台になっていたことを思い出す。ロケ地巡りを目当てにしていたわけではないけれど、ちょっと得した気分。三島駅から一駅分、市街地をそぞろ歩き、三島広小路駅から駿豆線に乗り。

天候に恵まれれば、富士山を見ることができ、駿豆線沿線。伊豆箱根鉄道の方からは、富士山をバックに駿豆線が撮影できるポイントを教えていただいていたけれど、どうやら今日は無理らしい。このまま一路、終着駅の修善寺まで行ってしまおうと電車に乗り込んだものの、やっぱり富士山は見られるものな

ら見たいもの。穏やかだけれど風があるおかげで、雲の流れがある。「もしかしたら」の期待を消しかねて、撮影ポイントに近い三島二日町駅で早々に途中下車。

### 富士山ですか？

駅を出て住宅地を抜けると、線路の両脇には田んぼが広がる。刈り取りを終えた田んぼの景色は寂しい半面、見晴らしは良好。撮影ポイントの見当を付けて歩きながらふと振り返ると、遠く連なる山並みに一際高い見覚えのあるシルエット。小一時間前には見えなかった富士山が登場？ でも、冠雪の見えないそのシルエットが本当に富士山なのか、確証が持てない。

どちらにせよ、裾野を雲に覆われた姿は、いつまたすべて隠れてしまっつか分からない。とにかく撮影ポイントへ急ごうと思ったら、田んぼと畑に道を遮られ、気付けば後ろにしか道がない。慌てて周囲を見回し、目が合った農作業中の女性に、道はないかと泣きつくのと、「こっちこっち」と招かれて、畑の端を通らせていただく。

御礼もそこそこ道を急ぎ、電車ごしに富士山らしき山が写りそうな場所を見つけたところで、タイミングよく踏み切り音が響き出し、電車が通過。山と一緒に電車を撮影。

撮ったのはよいが、この山は果たして富士山なのか。たまたま通りすぎた、今度は自転車で乗ったご老人を呼び止め、「すみません、あれって富士山ですよ？」と問抜けな質



富士山が見えるか見えないかは運次第。



源兵衛川は川の中を歩ける。流れが速く、鴨たちは大変。

## 伊豆箱根鉄道 駿豆線

【いずはこねてつどう すんずせん】

三島駅から修善寺駅まで、全13駅を34分で結ぶ。沿線には観光名所も多く、観光に便利な「旅助け」や「湯ったりきっぷ」といった乗車券を数多く展開している。





修禅寺の紅葉はまだだ。



開業92年を迎える修善寺駅。平成26年、新駅舎が完成した。

問。一瞬、ぼかんとしたご老人は、「そつだよ。どこから来たの？」と苦笑い。笑われついでに、次の大場駅までの道順も尋ねると、「あの道をまっすぐ。大丈夫？ まっすぐだよ」と心配そうに途中までお見送りいただく。親切な道案内のおかげで、何とか無事に大場駅に到着。富士山も見られたし、心置きなく修善寺へ。

### 修善寺はコンパクトな観光地

修善寺駅から観光名所が集まる修善寺温泉エリアまではバスで10分程度。紅葉が遅いことで知られる修善寺温泉エリア、木々の葉はまだほとんどが緑色。代わりに観光客の目を楽ませているのは、あちらこちらに飾られた菊の鉢植え。恒例の「菊花まつり」が開催中で、修善寺温泉の中心にある修禅寺の石段も、紅白の菊で飾られ華やか。

さて、「修善寺」と「修禅寺」。「ぜん」の字が違うことは知っていたけれど、その理由が分からない。境内で説明書などを探していると、本堂脇の木の下に白い顔が彫られた大きな石があるのを発見。由緒ある風情だけでなく、周辺に説明表示が見当たらず、これまた何か分からない。あの石は、顔は、一体何？ 石の不思議に気をとられ、寺の名前についてはすっかり忘れて修禅寺を出る。そのまま鎌倉二代将軍源頼家の墓所、頼家の冥福を祈って建てられた「指月殿」を巡り、竹林の小路を抜け、桂橋を渡る。観光スポットがまとまっているため、ゆっくり歩いて1時間

半程度で再び修禅寺の前に戻ってこられる。

### 特別講義「修禅寺」

程よく疲れた足を休めに、修禅寺が真正面に見える場所にある茶店に入店。修善寺の名前の由来が分からないままになっていたことを思い出し、店主の手が空くのを見計らって尋ねてみると……。

「説は色々だけど、もともと修禅寺は弘法大師に開かれた真言宗のお寺で、その頃は『善』だったのが、鎌倉時代に禅宗に改宗したことで『禅』になったって言うね。その改宗の経緯はね……。修禅寺の由緒から鎌倉時代の歴史、さらには地域の名産品についてまで、特別講義が急遽、開講。

「えっ本堂脇の顔を彫った石？ あれは『だるま』。さほど古いものじゃなくて、明治以降に寄進されたんだよ。修禅寺は禅寺だし、寺の後ろに達磨山も見えるから、それにちなんだんでしょう。『だるま』は達磨大師が座禅をしている形でしょ。ああ顔は元から白かったわけじゃなくて、石全体を拭いたら、顔だけが何故か白くなっちゃんだよ。調子に乗ってあれこれ質問を重ねるうちに、秋の空はすでに夕暮れ。お礼を言ってお席を立つと、博識な店主は最後に笑って、重要な情報をもっ一つ。

「あの『だるま』、顔だけが白くなったから、地元では『美白だるま』なんて呼んでいるんだよ。ご利益、あるかもしれないね。」

分かりました、もう一度行きます修禅寺。帰る前に、美白だるまを拜みに行きます。



東京駅から特急「踊り子」で修善寺まで乗り換えなし。



「美白だるま」のご利益はいかに？



博識店主のお店は修禅寺の目の前。名物は「黒米餅」。